

各研究会案内

各地の研究会

補聴器に関する 国際フォーラム 第4回 International Forum 2000

期日: 2000年2月11日(金・祝)
場所: 京都駅前「京都テルサ」9:30~
内容
1: Educational Audiologyに関する講演
(講師: 現EAA会長 Dr.Barbara)
2: 子どもの人工内耳装用に関する講演
(講師: Paaytricia M.Chute C.C.C.)

大阪地区 第27回聴覚障害教育共同研究会

期日: 平成12年2月16日(水)
会場: 大阪府立堺聾学校
TEL0722-57-5471
FAX0722-57-3310
問い合わせ: 申し込みは小学部まで
時間: 15:30~
対象: 聴覚障害児教育に携わる
小・中学校の先生(難聴学級など)

大阪聴覚障害教育研究会 第11回研究会

日時: 2000年2月5日(土)
午後2時30分~5時
会場: 大阪市立波除小学校
JR環状線・地下鉄 弁天町駅下車すぐ
大阪府立難聴研究会
日時: 2000年2月8日(火)
会場: あべの市民学習センター
実践交流会で、報告は、八尾市立安中
小学校の取り組み、枚方市立高陵小学
校の通級指導教室の取り組み、大阪府
下の難聴学級に対するアンケート調査
報告を予定しています。

京都地区 平成11年度第4回 京都聴覚障害教育研究会 京都言語障害教育研究会との 合同研究会

日時: 平成12年2月19日(土)
9:00~16:30
会場: ウイングス京都
東洞院錦東入る京都大丸北側
京都市営地下鉄四条駅
阪急烏丸駅下車徒歩10分
「LD児の指導その2」
大阪府立大学 里見 恵子 先生
シンポジウム
「軽中等度難聴といわれている
児童の指導について」
座長 京都府立聾学校 津田宏子
シンポジスト
京都市立朱雀第7小学校
和田 展子先生
京都市立塔南小学校

三野 和子先生 亀岡市立亀岡小学校 森田扶美代先生 和歌山地区

第10回和歌山県言語障害児 教育研究発表会

日時: 平成12年2月17日(木)
13:00~16:30
会場: 和歌山市立城北小学校
和歌山市鷺の森南ノ丁1

TEL073-428-2610
FAX073-431-8147
研究主題「難聴・言語障害児教育
のより望ましいあり方」
- 子どものもとめに応じた指導を
めざして -
全体会
講演「LD及び周辺児の理解と指導」
大阪府立大学 里見 恵子 先生
分科会
1 構音に障害を持つ子の指導
2 吃音の見られる子の指導
3 聴覚に障害のある子の指導
4 言語に遅れの見られる子の指導
問い合わせ
和歌山市立吹上小学校ことばの教室
TEL073-426-3950
FAX073-424-8182



奈良県立ろう学校内 近畿教育オーディオロジー 研究協議会事務局

奈良県大和郡山市丹後庄町456

事務局長 中井 弘征

TEL 0745-56-4604

FAX 0745-56-4604

メール h-nakai@indigo.plala.or.jp



近畿教育オーディオロジー研究協議会ニュース

第1号
発行日: 2000(平成12年)/01/01

目次

発足の挨拶

近畿教育オーディオロジー 研究協議会発足

次回勉強会開催

第1回記念講演要旨

第1回研究会感想

近畿各地域の 研究会のお知らせ

近畿教育オーディオロジー研究
協議会の設立の喜び

近畿教育オーディオロジー研究協議会
を平成11年8月18日(水)19日(木)の2
日間に設立総会と記念講演および講習
会の行事を終えました。近畿地区の聾学
校、難聴学級、通級指導教室などの理解
と協力によって誕生しました。
聴覚障害児が充実した学校生活を送れ
ることを願って、子供達の障害について理
解深め、コミュニケーションの方法や言語
指導などの「きこえに関する領域」と子ども
達の覚活用などの教育活動の確立発展
のために教育機関が連携して研修及び
研究を行う目的のために1年前から準備
され設立に至りました。関係者の努力に
感謝しますとともに今後のご尽力にを
願います。
記念講演で筑波技術短期大学教授の
大沼直紀先生から教育オーディオロジ
スの第1歩として、また教育者だからこそ
子供の行動についての意味を読みとっ
て、子供の聴能発達に確信をもって、子
供と行動をともにすることが補聴を支援
し、聴能が生かせる環境作りを近畿教育
オーディオロジー研究協議会の設立に願
いをこめているところに、その意味がある

のです。子供の補聴器の個別指導プ
ログラムをサポートすることの必要性
や医療でない教育分野の今後の支援
が、特に期待されていることをご講演
いただいたと思います。
この記念講演を受けて第2日目に大
阪府立生野聾学校で18分野にわたる
講習会を実施し、その研究・研修内容
やその準備にいろいろ準備いただきま
した。その成果は大変大きいものがあ
ると思います。
今後、聴覚障害児教育における聴
能管理や補聴器フィッティング及び聴覚
学習などの教育活動に各教育機関の
協力と会員の皆様の更なる努力をお
願ひし、設立の喜びにいたしたいと思
います。
ここに無事発足できましたことに感謝
申し上げます。

近畿教育オーディオロジー研究
協議会 会長
奈良県立ろう学校 校長
名倉 俊夫

勉強会開催

近畿教育オーディオロジー 研究協議会 勉強会開催のお知らせ

日時: 平成12年1月15日(土)
13時30分~15時00分
会場: 大阪市立聾学校
大阪市中央区上町1-19-31
TEL:06-6761-1419
FAX:06-6762-1800
谷町6丁目から4丁目徒歩10分
日程
13:15~13:30 受付
13:30~15:00 勉強会

当日会費: 会員無料、会員外資料
代を徴収させていただきます。なお、
会員になれる方は2000円お支払
い下さい。
研究会内容について
今回、は教育オーディオロジーの果
たす役割について今年度夏に行った
各聾学校からのアンケートを元に奈
良県立ろう学校の中井弘先生と大
阪市立聾学校の中瀬浩一先生から
報告していただきます。
「教育オーディオロジーとは何か」を
中心に、日ごろ感じておられる疑問
や問題点を交流する大変よい機会
です。

また、聴覚障害に関わる諸機関の
より円滑な連携と研修の場になれば
と思います。
是非ご参加ください。



講演要旨

教育オーディオロジーの必要性が認識されたのは、1970年代後半のアメリカからである。1977年と1985年に米国障害教育局が聴覚障害教育に関する調査を行い、「聴覚障害児の装着している補聴器の大部分が適切に機能していない」と報告し、「その原因は聴覚活用の専門教育に不備があるからだ」とした上で、教育の分野においてもオーディオロジー(オーディオロジスト)が必要であると提言したことから始まる。

日本では、昨年度ようやく言語聴覚士の資格ができたが、聴覚だけの専門家ではない。アメリカのオーディオロジストは、聴覚の専門資格で、対象者や職種によって3つのオーディオロジストに区別されている。

- ・Clinical Audiologist
耳鼻科の難聴外来や補聴器外来で補聴器適用に関わるオーディオロジスト。
- ・Educational Audiologist
ろう学校や難聴学級で聴覚障害児の聴覚補償の教育を担っている専門教師。
- ・Industrial Audiologist
企業内のオーディオロジストや補聴器メーカー、大学、補聴器専門店などの専門家。

我が国の場合は、従来からある耳鼻科医療を中心とするClinical Audiology (Rehabilitative Audiology)の領域だけでなく、聴覚障害教育が中心となるEducational Audiology (Habilitative Audiology)の領域がきちんと確立され認知される必要がある。そして、2つの領域が対等な「連携(リエゾン)」



の関係がつかれるような努力が必要だ。その意味でこの会の発足は大変意義深いことだ。

すべての子どもには可能な限り人や環境から音を受容し役立てる権利がある。ろう学校に永く勤めながら、もはや補聴器に関心に向けない教師がいたとしたら、それは手話に関心に向けない者と同じ誇りを免れないだろう。補聴器の効果は音の増幅による考えるだけでなく、聴く心が作用するという聴能の働きに気づいた時、この時が教育オーディオロジストへの第一歩となる。教育者だからこそ子どもの行動の意味を読み取り理解しようとする。そして、教育者だからこそ子どもの聴能の発達に確信が持てるのである。聴能の支援をする者は、子どもと行動を共にする者(専門教師)が最もふさわしい。

教育オーディオロジストは、「聴力を相手にするのではなく、聴能を相手」にしなければならない。聴力検査を例にとっても、医療とは異なる教育的な視点に立ったオーディオロジストの工夫や子どもの行動や心がわかるオーディオロジストの記入が大切である。そして、「能動的に聴く」ことへの教育をすすめる大切な役割を担っている。

これからのろう学校(ろう教育)にとって、専科のオーディオロジストが必要である。このオーディオロジストは、子どものフィッティングだけを仕事と考えているようではない。自分が直接オーディオロジストの仕事をするよりも、担任の先生をサポートする役目が大切になってくる。そのため、「観察データの集積」「個別指導プログラムの作成、援助」「道具立て」「音環境のチェック」などに力を注ぎ、担任や保護者との相談の際には、チェックすべき内容が客観的で整理されたものとなるようフォーマットな記録用紙を用意しておくことよ。



講演の感想

教育オーディオロジーの役割についてよく整理されわかりやすかった。手話との関係についてももう少し突っ込んで聞きたい気がします。

貴重なお話が聞けてよかった。

日々の教科指導に追われて補聴器や子どものきこえに対してついつい放っておきがちになります。もう少しきこえの質にも眼を向けなくてはと改めて思いました。

これからの聴覚障害児教育の中心的な役割をになう教育オーディオロジスト。これからの聾学校は大きく様

変わりしていくことと思います。今後聾学校に何が必要なのか方向性がわかりました。聴能というのは心で聴く力をつけるようにすること「心」が大切な教育というのはどんなに技術の進歩、科学の発達があるうとも指導者側に「心」があってのオーディオロジーだと思っています。

理論的にわかりやすかった。単なる補聴器に長けていたり、手話ができたりするのではなく、「教育オーディオロジー」の方向性が自分なりに腑に落ちた感じです。

「伝わる授業」から「分かる授業」「意欲がもてる授業」まで発展させていくのは並大抵ではないですが、一つの方向性を示唆していただけたと思います。

内容のわかりやすさ、歯切れのよさ夢中で聞き入ってしまいました。レベルの高いお話は初心者にもわかりやすくお話をくださり、しかも私まで夢を考えてみようという思いにさせてくださいました。

各講座の感想

具体的でとても参考になった。今年初めて難聴学級の担任になり、1学期は手探りでしたが、講座を聞いて頭の中が整理され方向がはっきりしたように思う。3人とも熱心でいろいろ実績を積み上げられてきて頭が下がります。今後ともいろいろ教えていただきたいと思っています。

聴力検査実際に機械を使った実習ができてよかった。少人数でアットホームで質問もしやすく良かったと思います。先生方の熱意が感じられました。

2学期に向けてがんばろうという気持ちが湧いてくるようです。今日教わったことを参考にしつつやってみようと思います。

オーディオメーターの使い方がわかりました。早速学校へ帰って使ってみたいと思います。

どの講座も興味がありもっともっと時間があればと思います。

それぞれが自分の学校の実践を話してくださったのが良かったです。



在籍学級児童や職員への働きかけも結構行き詰まっていたのでいろいろ参考になりました。

講座全体の感想

それぞれのニーズに合うような形でたくさんの講座をしていただけて大変良かったのではないかと思います。

授業の完全のない日に行っていたら遠方からくるのでとてもありがたいです。

聾学校だけでなく、難聴学級を含めたところにひとつのメリットがあると思います。

来年度もこういう機会があればと思います。

今回手作りでもよかったと思います。私たちのレベルアップを図ることはとても大事だと思います。

す。聴能を最大限に活用することと同時に手話使用についても捕らえていく必要を感じます。そのためにも自分の実践をしっかり出していく必要を感じました。



聾教育に携わる人の熱意を感じます。私もいっそう勉強しなくてはと心引き締まる思いがします。

ベテランの先生も聴能の係りになってまだ4ヶ月の私もそれぞれ悩みが(内容は違うけど)あるんだなと感じました。いつまでたっても勉強だなと思います。がんばりたいと思います。

講師の紹介のときに「近畿にこれだけの人材がいるんだな」と感慨を覚えました。少人数で顔つなぎをしながら近畿各校や難聴学級の様子もうかがいがい知ることができました。

少人数講義の内容が素晴らしいので度々こんな機会が与えていただけたらと思います。

今後への要望

1つのテーマに絞って3コマ聞けても良かったのではないかと思います。

周囲の聞こえる生徒や他の教職員も視野に入れての実践例や取り組みをいろいろ教えて欲しいです。

できれば3日間くらいして、Aコース卒業、Bコース卒業というように一番初歩から系統的にしていたらうれしいです。

どの講座も興味があり、もっともっと時間があればと思います。

講義の中には15分も伸びてしまっ

たものもあり、皆さんの気持ちはわかるのですが、お昼の時間を確保するというので厳守して欲しいです。

ひとつの講義の時間がもっと長くてもいいように思います。できたら2日間少人数講義を持っていただけたらと思います。

実際に測定したり調整するには少し時間が足りませんでした。

本日はいろいろご説明していただけて参考になりましたが、技術的なお話で終わったのが残念でした。

